

切実な願いにこたえる

日本共産党 4議席



市議会議員

いぬい紳一郎



市議会議員

小田桐たかし



市議会議員

徳増きよ子



市議会議員

植田和子

人口急増により、子育て支援と高齢化対策を同時に取り組まなければならぬ流山市。3月議会で日本共産党は、難しい課題を抱えた市政に、市民の願いを届け、「誰もが安心して暮らせるまち」と迫りました。

学校 過大・過密校の解消を

教員の長時間過密労働が慢性化するもと、一人ひとりの子どもに目が行き届くようにと、これまでは過大・過密校の解消に努力してきた流山市。しかし、井崎市長が人口誘致に力を入れて以降、過大・過密校が次々生み出されています。新設小学校を建設しても且34年度には、小山小学校に3・8校分、おたかの森小学校に3・2校分の児童を

保育 「保育所落ちた」をなくせ 保育の質の向上と「体で

「母になるなら…」と「ゼロ」とはほど遠い事態です。このキャッチコピーとは裏腹に『保育所落ちた』というパパやママが続出。昨年4月の待機児146人を今年下回るもの、



ゴミ収集 不正許さず追及

昨年、家庭ゴミ収集の委託業者に「事業系ゴミ等を家庭ゴミに混ぜている」との告発を受け日本共産党が独自調査を実施、徹底調査を求めました。その後、市の抜き打ち調査で、あつてはならないゴミ混在が発覚。行政「指導」となりました。しかし、ごみ処理の取扱い許可を取り消されるような事態にもかかわらず、行政「指導」にとどめた背景は、委託料の大幅削減を優先させた市政経営にあります。



学童クラブを視察

日本共産党は、学童クラブの生活環境改善を求め市内施設を視察。子どもの人権に配慮された施設整備を確認するとともに、今議会には国や県への意見書を発議し、全会一致で可決しました。

医療介 在宅をささえる ネットワークの構築を

3月議会で日本共産党は在宅をささえる医療・介護の連携について質問。政府は「地域包括ケアシステム」を展望着いますが、流山市は在宅医療の現状すら把握できていません。「病院から在宅へ」の流れが強まっております。行政や医療・介護関係者、市民と力合わせ、年をとっても安心して暮らせる流山市の実現に力をつくします。

ひろげよう 「ヒバクシャ国際署名」

歴史上初めて、核兵器禁止条約を正面の主題にすえた「国連会議」が行われました。唯一の被爆国である日本政府が交渉への不参加を表明。一方、日本共産党は志位和夫委員長が「市民社会」の代表の一人として演説を行いました。3月議会では「核兵器禁止を求める『ヒバクシャ国際署名』に市長としてすでに署名した」との答弁がありました。「核兵器のない世界」の実現はみんなの願いです。日本共産党は引き続き力をつくします。



また、近隣市では唯一、保育料値上げを強行。影響額は総額2億2千万円にもなります。「保育料の地域差、5倍近く。3歳未満の最高額は千葉県流山市」（15年11月29日、日経）という現状を、さらにひどくすることになります。



身近な要求実現

小児救急医療への助成金を増額

いぬい紳一郎



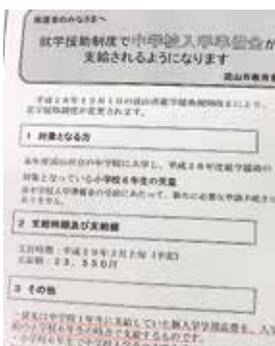
おたかの森小中学校 エアコン設置へ設計開始

小田桐たかし



就学援助の入学準備金2月支給に

徳増きよ子



江戸小、念願の洋式トイレ増設

植田和子

